ICT街づくり推進会議地域懇談会＠五島市
議事概要

1．日時
令和元年 7月 5日（金）10:00～12:00

2．会場
長崎県五島市福江文化会館展示室

3．出席者
（1）ICT街づくり推進会議構成員

住友商事株式会社特別顧問	岡　　素之（座長）
産業戦略研究所代表	村上　輝康
（以下、スマートシティ検討 WG　構成員）	
清水建設株式会社 LCV　事業本部ソリューション営業部長	溝口　龍太

（2）ICT まち・ひと・しごと創生推進事業（平成 28 年度補正予算）及び
地域 IoT 実装推進事業（平成 30 年度予算）に係る関係者

①五島市	
五島市長	野口　市太郎
農林水産部長	田端　正之
農林水産部農業振興課長	田脇　栄二
農林水産部農業振興課課長補佐	藤原　勝栄
農林水産部水産課長	井川　吉幸
市民生活部国保健康政策課長	川上　敏宏
②長崎大学病院総合診療科教授	前田　隆浩
長崎大学予防医科学研究所	本多　由起子
長崎大学地域包括ケア教育センター教授	永田　康浩
メディカルアイ株式会社	長谷川氏

（3）IoT サービス創出支援事業（平成 30 年度予算）に係る関係者

システムファイブ株式会社代表取締役社長	佐藤　康彦
KDDI株式会社	福嶋　正義

（4）総務省

情報流通行政局情報通信政策課長	今川　拓郎
情報流通行政局情報通信政策課企画官	寺村　行生
情報流通行政局情報通信政策課課長補佐	吉田　智彦
九州総合通信局長	岡野　直樹(司会)
九州総合通信局情報通信部情報通信振興課長	松下　邦裕
九州総合通信局情報通信部情報通信振興課課長補佐	齋藤　康二

4．議事概要
（1）ICT街づくり推進会議について
事務局から、資料1について説明が行われた。

（2）ICTまち・ひと・しごと創生推進事業及び地域IoT実装推進事業の事例
野口五島市長からの挨拶の後、五島市から資料2及び資料3について説明が行われた。その後、出席者による意見交換が行われた。意見交換での主な発言は以下のとおり。

①「鳥獣害対策システムによる安心安全な島づくり」について
【村上構成員】
　鳥獣害対策として捕獲と追い払いでしっかり科学的にアプローチしている印象をうけた。クマ対策では全国レベルで情報共有ネットワークがあるが、イノシシ、シカについてはまだこれからなので、五島での取り組みで、毎年、毎期でデータをまとめておいていただくと全国ベースでのノウハウの共有に使えるのではないか。この方向で科学的なアプローチをこれからも進めていただきたい。

【岡座長】
　成果があるというのが良い。イノシシが原因で耕作放棄地が出ていたが、被害がなくなった事が良いと思う。被害額が減りはじめた事で、関係者・農家もよろこぶ。これからも頑張ってほしい。

【事務局（今川課長）】
　素晴らしい取り組みであるが、被害状況の数字として、平成30年被害金額で上昇を食い止めたということで、そこを吹き出しをつけるなどして成果をしっかりアピールしていただきたい。
　また、被害面積について、シカだと大幅に面積は狭まっているが被害金額は大きく減ってはいないとか、面積と金額の関係性について何かわかれば教えていただきたい。

【五島市（藤原課長補佐）】
　資料について、見やすく吹き出し、コメントをつけて動きが読めるように資料は作っていきたい。
　被害額と面積の関係については、飼料作物と単価の高い大豆や米とでその作物ごとに年ごとの被害量も違ってくる状況である。

【岡座長】
　作物ごとのデータもあるとのことで、場合によってはそれも表に出すと面白いかもしれない。

【五島市（藤原課長補佐）】
　住所ごとに被害作物の細かいデータはあるのでそういった関係資料もつけながらつくっていきたい。

②「ビッグデータ解析による個別介入適正化プロジェクト」について

【溝口構成員】
　総務省の実証事業ということでかかりつけ医、急性期病院、調剤薬局とのデータ連携で個人が口座を作って医療、ヘルスサービスを受けられる環境を作れないかという取り組みをしているが、五島市の取り組みについては行政サービスとして行政だけでやっていく、もしくは民間と連携するということが視野にあるのか。

【五島市（川上課長）】
　まだ現時点では市役所内だけの個別介入ということで考えて進めているが、市役所の中だけでは広がらないので、個人情報の取り扱いについて整理しながら適切な介入、市民全体と取り組める方向にしたい。

【村上構成員】

このシステムはインフルエンザの早期周知やポリファーマシーへの対応ということで、経済的、社会的に意義の大きいシステムだが、これは日本全体を見てすでに行われていることなのか、五島市の今回のプロジェクトで出てきた独自の成果なのか。

【長崎大学(前田教授)】
ポリファーマシーとインフルエンザの情報発信はおそらくやっているところはあまりないと思う。前日に処方された抗インフルエンザ薬が市内のどの地区、年齢層、人数などが市内の医師会などに朝8時に発信でき、ドクターはこの情報を見て診療に入ることができる。
学校関係者、幼稚園関係者、保育園関係者それから高齢者施設にも毎日配信すると予防の啓発につながる。
ポリファーマシーについても市丸ごとでやっているところはなかなかない。市全体、県全体ではレセプト情報を解析する取り組みはあるがなかなか正確ではないが、このシステムでは1日ごとに日分けしたデータベースを作っているので正確にわかる。今年度からはこれをもっと活用するような取り組みを進めていこうと思っている。

【メディカルアイ(長谷川)】
今現在五島市様に引き続き長崎県の薬剤師会様の方でも、県に広めようということで取り組みいただいており、まずは諫早市の 9 割方の薬局が今ご参加いただいているという形で、システムの構築が進んでいる。
今年度については、さらに 200 箇所の薬局に導入しようということで、今度地域の基幹病院を中心にした面で攻めるような形で、展開を進めさせていただいているというのが補足である。

【村上構成員】
医療機関と住民の間のデータ連携が、結果として、社会的な変化や兆しを察知できる仕組みにもなって、より大きな効用を生み出しているということでは、五島モデルといってもよい展開である。全国的に拡がると良いのではないかという感触を持った。

【岡座長】
いきなり全国展開は難しいと思うが五島と同じような規模の自治体に展開していき、県レベルでも検討を進めていただいたら面白いのではないか。
細かい質問であるが個人側からシステムに入っていって自分の状態を確認するということもできるのか、あるいは個人はあくまでもデータを提供し、アドバイスを受けるというような立場なのか。

【長崎大学(前田教授)】
現時点では個人は入っていけない、アドバイスを受ける側であるが、自分がデータをコントロール、管理するようなことを視野にいれてこれからやっていく必要があると認識している。

【岡座長】
将来的には、国民からすると受け身ではなく自分から入っていきたいという気持ちがあるので、その方向で検討いただいたらよい。マイナンバーカードを使うのも一つの方法と思う。

【事務局(今川課長)】
鳥獣害対策の成果についてと同様に、調剤情報共有システムでリアルタイムで情報を共有して、どういう成果が出たかというのを読んだだけでもわかるように強調していただきたい。五島モデルで成果が上がって他の自治体にも進めるというようなこともできるので、その成果をしっかりアピールできるような資

料にしていただけるとありがたい。

【五島市(川上課長)】
　今年度まだ動き始めではあるが、成果を追っていきながら示していきできれば五島市だけでなく全国に広めていけるようにしたいと思う。

【岡座長】
　住民のためにもそのデータを発表すると、市民に対して今やっていることがこんなに成果があるのだということを知ってもらえるのがよろしいと思った。

【野口市長】
　金額的にそれぞれの家庭の医療費がこれだけ節約されたという話になるとよい制度だと思う。実は加入者数では1万3千人ぐらいで病院に行っている人の半分ぐらいは登録されているだろうということで、医療費の節約など、そういうことで役に立つなら協力したい、ということにつながるので、金額や成果をしっかりとアピールしていきたい。

(3)IoTサービス創出支援事業
システムファイブ株式会社佐藤康彦社長から資料4について説明が行われた。その後、出席者による意見交換が行われた。意見交換での主な発言は以下のとおり。

【村上構成員】
　タイトルが五島マグロ養殖基地化を実現するIoTシステムになっているが、実際にやっていることは赤潮の判別の効率化なので正確に表現した方がよいと思う。
　AIは画像認識のところに使ったのか、それとも判別効率化のところに使ったのか。

【佐藤社長】
　画像認識に使っている。

【岡座長】
　赤潮が来るか来ないかどの程度のものが来るか、リアルタイムでキャッチする対策だが、この次のテーマとして赤潮からマグロを守る決定的な対策を考えていったらよいと感じた。
　2000万円ぐらいの被害だから、例えば200万円ぐらいのコストで対策を打ったら、効果的なものがあるのかどうかということを今後のテーマだと強く感じた。
　持続性の点で、行政が予算をかけてやっていては長続きしないので、商用化、自立化という目標を掲げて、2年後の商用化というのは大変結構だと思う。

【佐藤社長】
　商品化というところは最大の目的である。まだ実験装置的であるので、コンパクトなアタッシュケースのようなものにしたいと考えている。海水の供給自動化もどうしても必要だ。
　赤潮対策については水産の専門家からの指導や研究議論になる。それらが漁業者に対する供給として非常に価値があるものになっていくと考えている。

【岡座長】

関係者の皆さんから大変ご丁寧なご説明をいただいて、私どもの理解は相当深まった。三つの事業とも市長のリーダーシップが随所に表れていると感じた。ぜひそれで今後とも引っ張っていっていただきたい。

鳥獣被害でも農業従事者も含めた関係者の方々がどれだけ評価をして参加するのかということにかかってくる。調剤情報共有システムも参加人数が増えることによりデータが大きくなるから、さらなる効果につながるかもしれない。これが「五島モデル」あるいは「長崎モデル」として、全国展開できるとよい。そのためにも母数を増やすことは効果的と感じた。

最後の赤潮対策についても、商業化を目指していることを再確認したが、この取り組みはマグロだけではなくいろいろな養殖で活用できるだろう。

ICT街づくり推進会議としても、引き続きいろいろな形で支援させていただきたい。

（了）